

米海軍と合同で 原子力防災訓練

神奈川県・横須賀

米原子力空母が配備されている神奈川県横須賀市で15日、市や政府、米海軍などが合同で、巨大地震を想定した原子力防災訓練を行

った。参加者はけが人の取り扱いや、空母周辺の安全確保の手順を確認した。

市によると、三浦半島断層群を震源とするマグニチュード6・8の地震が起き、市内全域が停電したとの想定で、内閣府や米大使館など12機関から計約250人が参加。空母ロナルド・レーガンが停泊している周辺の海域では、海上保安庁の特殊警備救難艇が放射線量を測定した。

米海軍横須賀基地内ではけが人にトリアージをしたり、基地外にある病院に搬送したりする訓練もあった。市庁舎でも災害対策本部の立ち上げや、米側との情報共有の方法が確認された。上地克明市長は取材に「日米の連携が図られ、万が

一の事態でも機能する体制だと確認できた」と話した。